

「選挙学習プログラム」の 開発——地域を生かした 模擬市長選挙——

栃木県今市市立大沢中学校

たけ だ さち お

武田幸雄

【実践の概要】

本研究は、中学校社会科の選挙学習を「模擬選挙学習」に変えることによって、

生徒は生き生きと学習に取り組むことができるようになった。

「選挙」に関する関心が高まり、「選挙制度」への理解が深まるであろう。

選挙公約をどのように考えて投票すればよいかが、分かりやすく理解できるであろう。

という仮説の検証を、3例の実践をもとに検証したものである。

実践を重ねるうちに「選挙学習プログラム」は、「模擬選挙学習」→「模擬今市選挙学習」→「課題解決的な模擬今市市長選挙学習」へと変容した。その間、「今市市長による授業」や「廻村いもこじ講座」が展開できたりした。

普段は社会科の学習に意欲の感じられない生徒も、驚くほど生き生きと学習に取り組むようになった。また、単なる選挙啓発に終わらない効果や「選挙学習プログラム」への一般化への手がかりが確認された。

【論文内容の紹介】

1 はじめに

若い有権者の投票率低下傾向および政治的無関心は、選挙がおこなわれるたびに大きな社会問題として取り上げられている。社会科の選挙学習の授業を改善することによって、これらの現象に歯止めをかけられないものかと思い「選挙学習プログラム」の開発に取り組んだ。

2 授業実践

クラス内で生徒がミニ政党を3つ（5～6名程度）作り、模擬投票を行う。選挙に関する知識についてクイズ番組形式を取り入れたり、今市市選挙管理委員長の話をもりこんだり、実物の記載台や投票箱を活用した。

まず、今市市の選挙の様子を知るために、市が独自におこなっている市民のための出前行政講座「廻村いもこじ講座」を利用した。

次に前今市市長福田昭夫氏の協力を得て、「市長による授業」の実践により、今市市の政治について現実的な理解を深めた。その後仮定の候補者を立て、有権者プロフィールを用い、討論会を開いて「模擬今市市長選挙」をおこなった。

「問題解決的な選挙学習プログラム」として実践した。まず、取材活動によって市民が政治にたいしてどのようなことを望んでいるかを知った。それらをまとめて直接市長に質問した（市長による授業）。次に、対立する2人の市長候補者（仮定）が様々な今市市の課題にどのような解決策を考えているか（公約）を示した。

公約のなかから自分が興味をもった課題を追求するための情報収集の場として「地域の活用」（廻村いもこじ講座）を設定した。その後、討論会をへて、模擬今市市長選挙をおこなった。

3 成果と課題

地域の活用は、生徒の興味、関心を喚起することと、情報の収集に有効であった。

課題解決的な選挙学習は、投票までの思考手続きを理解させるうえに有効であった。

人物プロフィール活用の是非

選挙制度理解のための有効な手だてをどのようにすればよいのか。